

第17回

淡海の川づくりフォーラム

プログラム & 選考用資料



日時：令和7年(2025年)12月21日(日) 10:00～16:30 (受付9:15より)

場所：草津市立市民総合交流センター(キラリ工草津)

主催：淡海の川づくりフォーラム実行委員会／滋賀県

共催：マザーレイクゴールズ推進委員会

後援：滋賀県河港・砂防協会／(公財)草津市コミュニティ事業団

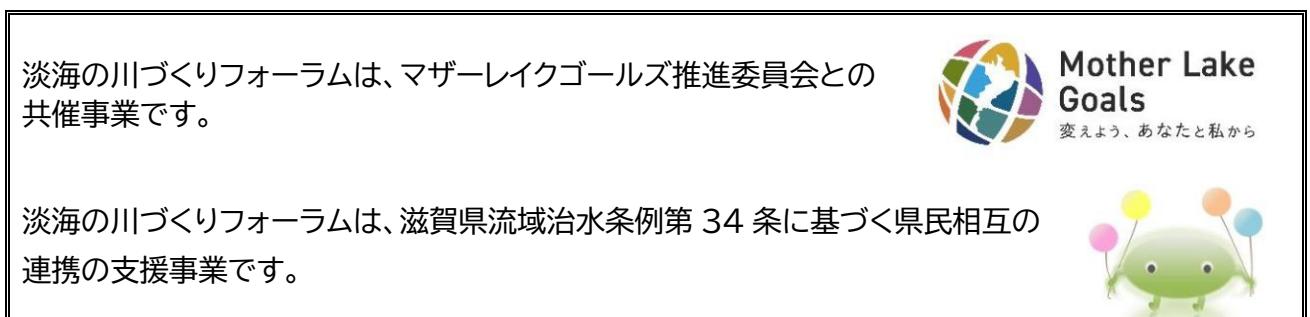
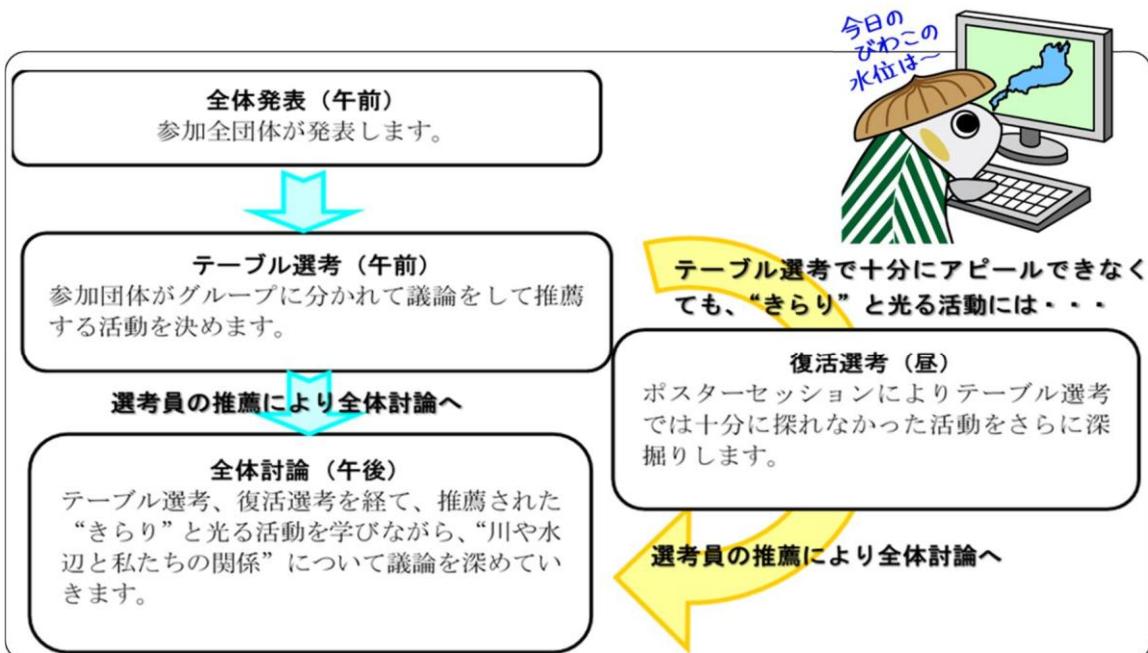
目次

1. 淡海の川づくりフォーラムの概要	1
2. 大会プログラム	2
3. 公開選考会の進め方・選考基準、表彰、配信について	3
(1) 「公開選考会」の意味	3
(2) 公開選考会の進め方について	3
(3) 選考基準	4
(4) 復活選考(ポスターセッション)	5
(5) 表彰	6
(6) 配信	6
4. 参加団体一覧・テーブル	7
5. テーブル別各団体活動位置図	8
6. テーブル選考 選考員プロフィール	10
テーブル A	10
テーブル B	11
テーブル C	12
7. 総合コーディネーター・全体討論 選考員	13
8. グラフィックファシリテーター&実行委員会	15
9. 現地会場 フロア全体図 (草津市立市民総合交流センター (キラリ工草津))	17
10. 参加団体活動概要	18
A-1 TANAKAMI こども環境クラブ	18
A-2 京都産業大学現代社会学部鈴木ゼミ	20
A-3 野洲川クリーン活動	22
A-4 子どもが遊べる川づくりプロジェクト	24
A-5 田村川わくわく探検隊	26
B-1 玉一アクアリウム	28
B-2 後藤潤一郎	30
B-3 成安造形大学 鯉する伊庭っこ	32
B-4 ぼてじゅこトラスト	34
B-5 BIWAKOTORI	36
B-6 滋賀県立伊香高等学校 森の探究科	38
C-1 あおむしくらぶ	40
C-2 サテライトサークル しらみね大学村	42
C-3 淡海を守る釣り人の会	44
C-4 小さな自然再生ネットワーク	46
C-5 北川を遊べる川にする有志の会	48

1. 淡海の川づくりフォーラムの概要

淡海の川づくりフォーラムでは、“川やびわ湖、水辺と共生する暮らし”、“川やびわ湖、水辺と私たちのいい関係”を探るため、公開選考方式のワークショップを通じて、川やびわ湖、水辺にまつわる活動を実践されている皆さんとともに議論を深めます。

- 日時：令和7年(2025年)12月21日(日) 10:00～16:30
- 会場：草津市立市民総合交流センター キラリエ草津
(滋賀県草津市大路2-1-35)
- 主催：淡海の川づくりフォーラム実行委員会／滋賀県
- 共催：マザーレイクゴールズ推進委員会
- 後援：滋賀県河港・砂防協会／(公財)草津市コミュニティ事業団



2. 大会プログラム

時間	内 容
9:15	○受付
10:00 10:15	○開会、ガイダンス 開会宣言を行い、その後1日の流れを説明します。
10:15 11:15	○全体発表 参加全団体による活動発表(発表時間各 3 分)
11:15 11:20	各会場へ移動
11:20	○テーブル選考
11:20 12:20	1)3つのグループ(テーブル)に分かれます。 2)発表者と選考員とで議論を深め、全体討論に推薦する“いち押し”の活動を選考します。(テーブルごとに 2 団体) 3)ここで推薦が得られなかった団体は復活選考に進みます。
12:20 12:25	全体会場へ移動
12:25 12:35	○テーブル選考結果報告・推薦団体発表 各テーブルから推薦された団体(計 6 団体)を発表します。
12:35 13:20	○お昼休憩
13:20 13:50	○復活選考(ポスターセッション) ・参加者全員で、応援したい！活動に「応援メッセージカード」を贈ります。
13:50 14:00	(パネル移動・着席) ○復活選考の結果発表 ・復活選考から全体討論に進むのは 3 団体程度です。



○全体発表・全体討論（適宜休憩をはさみます）

- 14:00 1)3分以内で活動内容を発表します。
| 2)総合コーディネーター・全体討論選考員を中心に、各団体への質疑も含め、明日
16:00 からの活動の参考になるような、今年いちばん“キラリと光る活動”について、参加者
全員でさらに議論を深めていきます。
-

- 16:00 ○まとめとふりかえり

- | グラフィックファシリテーション、キーワードにより、今年の淡海の川づくりフォーラムの
16:30 議論をふりかえります。

○各賞の発表・表彰式

- 1)「グランプリ」・「準グランプリ」の表彰
2)「マザーレイクゴールズ賞」、「山紫水明賞（河港・砂防協会賞）」の表彰
3)「応援の花咲いた賞」の表彰
-

3. 公開選考会の進め方・選考基準、表彰、配信について

（1）「公開選考会」の意味

- 淡海の川づくりフォーラムは、公開選考会という仕組みを使って、“川やびわ湖、水辺と共生する暮らし”、“川やびわ湖、水辺と私たちのいい関係”について考えることが目的です…受賞団体の選考は、手段であって目的ではありません。
- お互いの発表を聞き、選考員や参加の皆さんそれぞれの視点を通して、活動の「よいとこさがし」をしてください。
- 18ページから、今回参加の皆さまの活動概要を掲載しています。ページの下側に、「よいとこ探しキーワードメモ」の欄を設けています。ぜひ、「よいとこキーワード」をメモして、議論に参加してください。
- 質疑応答や討論時間を使って行われる「よいとこさがし」は、“川やびわ湖、水辺と私たちのいい関係”について考えを深める時間です。

（2）公開選考会の進め方について

- 選考会は、全体発表→テーブル選考→復活選考→全体討論（公開討論会）→表彰の順番で進めていきます。
- 全体発表は、参加団体が一堂に会して、日ごろの取り組みを発表します。全体発表は1団体3分とし、質疑は行いません。
- テーブル選考は3テーブルあり、1テーブルにつき5または6団体に分かれ、全体発表で語りきれなかった部分の説明や質疑を通じて、それぞれの活動について理解を深めます。発表者とテーブル選考員とで議論を深め、全体討論に推薦する“イチ押し”の活動を選考します。（テーブル毎に2団体）
- 全体討論選考員、一般参加の方は、テーブル選考の時間は各テーブル間を自由に移動できます。

- テーブル選考で推薦が得られなかった団体は復活選考に進みます。復活選考では、選考員が会場内に掲示された各団体のパネルを見て回りますので、時間内で自由に選考員に活動内容をアピールしてください。復活選考から全体討論に進むのは3団体程度です。
- 全体選考に進んだ団体は、午後からの全体討論で再度、各団体3分以内で活動内容を発表していただきます。(午前の発表内容と同じでも結構ですし、午前に言い残したことやテーブル選考等で反応のあった内容でも結構です。)
- 総合コーディネーター・全体討論選考員を中心に、各団体への質疑を含め、明日からの活動の参考になるような、今年いちばん“キラリと光る活動”について、参加者全員でさらに議論を深めていきます。
- 選考員は、自らも発表者から情報を得たり、学んだりする姿勢を持ちながら参加者と一緒に“川やびわ湖、水辺と私たちの共生”、“川やびわ湖、水辺と私たちのいい関係”とは何かを探求する立場にあります。議論や選考は、後戻りや批判をすることなく、創造的に深めていくことを心がけてください。
- 「グラフィックファシリテーション」「ホワイトボードレコーディング」により、「リアルタイム」で議論の「見える化」を行います。



(3) 選考基準

- 伝統的な文化と新しい文化が出会い融合する湖国滋賀にふさわしい“川やびわ湖、水辺と私たちの共生”“川やびわ湖、水辺と私たちとのいい関係”を探ります。
- 内容の長所を評価する加点方式とし、短所は減点の対象としません。
- 公開選考会は、以下の4つのポイントにおいて総合評価します。

- 1) 発想・着眼評価：“川やびわ湖、水辺と私たちのいい関係”をめざすための斬新な発想や着眼、的確な視点についての評価
例えば…
・この発想はなかった！
・やれるところからやりはじめているのが、イイね！ など



2) 関わり評価:地域住民と水辺との豊かで良好な関わり合いについての評価

例えば…

・水辺が地域を元気にするね！

・継続は力だ！ など

3) プロセス評価:市民・住民参加や、さまざまな分野の人たちとの協働のプロセスについての評価

例えば…

・え、そんな人たちも参加しているんだ！

・その連携は面白い！ など

4) 計画・技術評価:“川やびわ湖、水辺と私たちの共生”のために工夫された計画手法や採用技術についての評価

例えば…

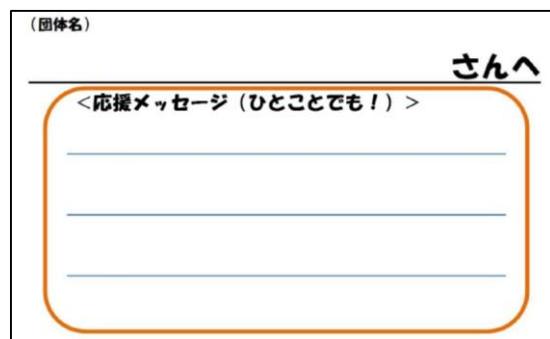
・そんなことが出来るんだ！

・すこしの工夫ですいぶん違うね～！ など



(4) 復活選考(ポスターセッション)

- 会場内に、各団体の活動を1枚にまとめたポスターを掲示したブースを設置します。参加団体はそれぞれのブースの前で参加者の皆さんに活動をPRしてください。
- 各団体の活動内容(ポスター)については、本プログラム P18～P49 でもご覧いただけます。
- 参加者全員に「応援メッセージカード」を2枚ずつお配りします。
- ポスターや各団体のPRを見て、応援したい！と思われた活動に「応援メッセージカード」を贈りましょう！
- 「応援メッセージカード」には一言でもメッセージを書いてください。団体の活動の励みになります。



(5) 表彰

【グランプリ・準グランプリ】

- 上記の選考基準により、審査する時点の流域・地域の情勢も踏まえ、“水辺と私たちの共生”、“水辺と私たちのいい関係”のモデルとなる活動を選考します。
- 上記の選考基準により、仲間たちに希望を与える活動を選考します。

【マザーレイクゴールズ賞】

- 上記の選考基準とは別の視点から、マザーレイクゴールズ(MLGs)の目指す、2030 年の持続可能社会の実現に向けて貢献する活動を選考します。
- テーブル選考で推薦されなかった団体も含めて、すべての参加団体が受賞の候補となります。

【山紫水明賞(河港・砂防協会賞)】

- 上記の選考基準とは別の視点から、今後の淡海のいい川づくり・いい湖づくりの(事業)推進に向けて貢献する活動を選考します。
- テーブル選考で推薦されなかった団体も含めて、すべての参加団体が受賞の候補となります。

【応援の花咲いた賞】

- 上記の選考基準とは別に、会場内に掲載した各団体の活動内容に対して、参加者からのメッセージが一番多かった団体を表彰します。
- 全ての参加団体が受賞の候補となります。
- 他の賞と重複して受賞する可能性もあります。

(6) 配信

YoutubeLive 配信について

本日のフォーラム中の様子は YouTube Live で配信しております。また、後日 YouTube でアーカイブとして公開する予定です。アーカイブ配信にあたり配慮が必要な方は事務局までお申し出ください。

■ 配信 URL:<https://youtube.com/live/3iClfT2PSsQ>



当日の配信とアーカイブは
コチラからご覧ください。

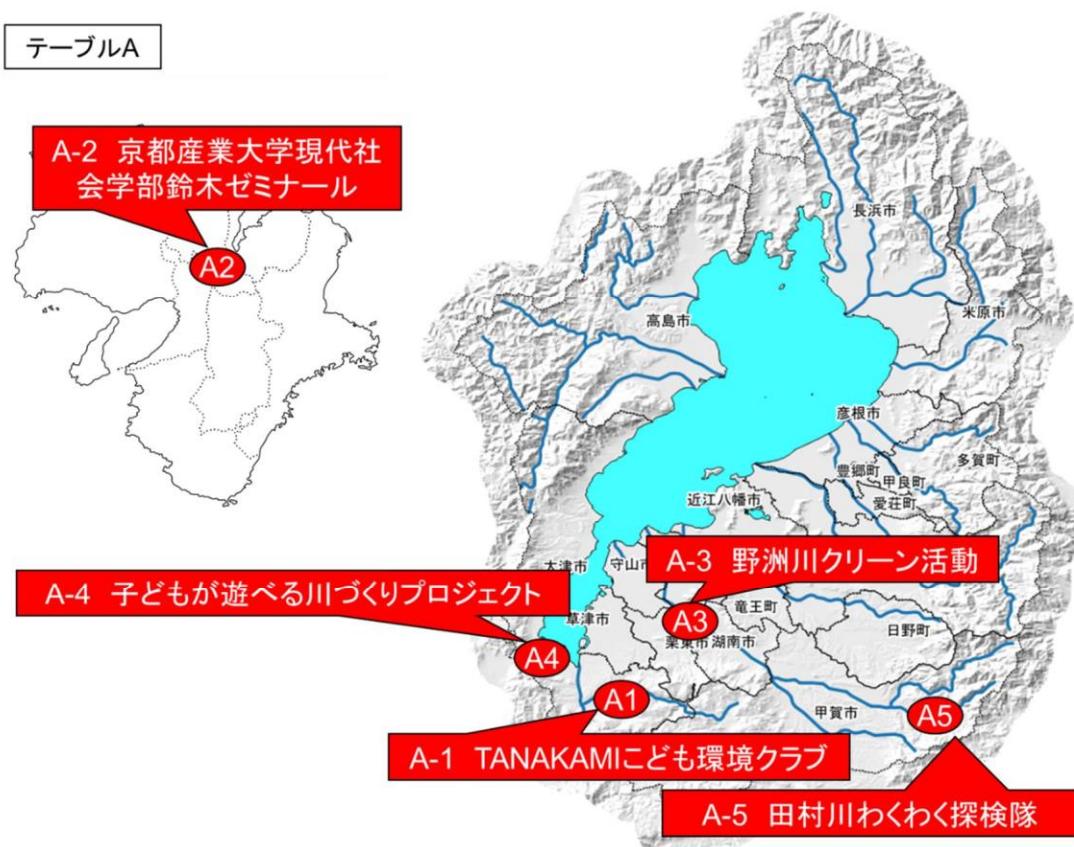
4. 参加団体一覧・テーブル

●全体発表はA-1から順番に行います。

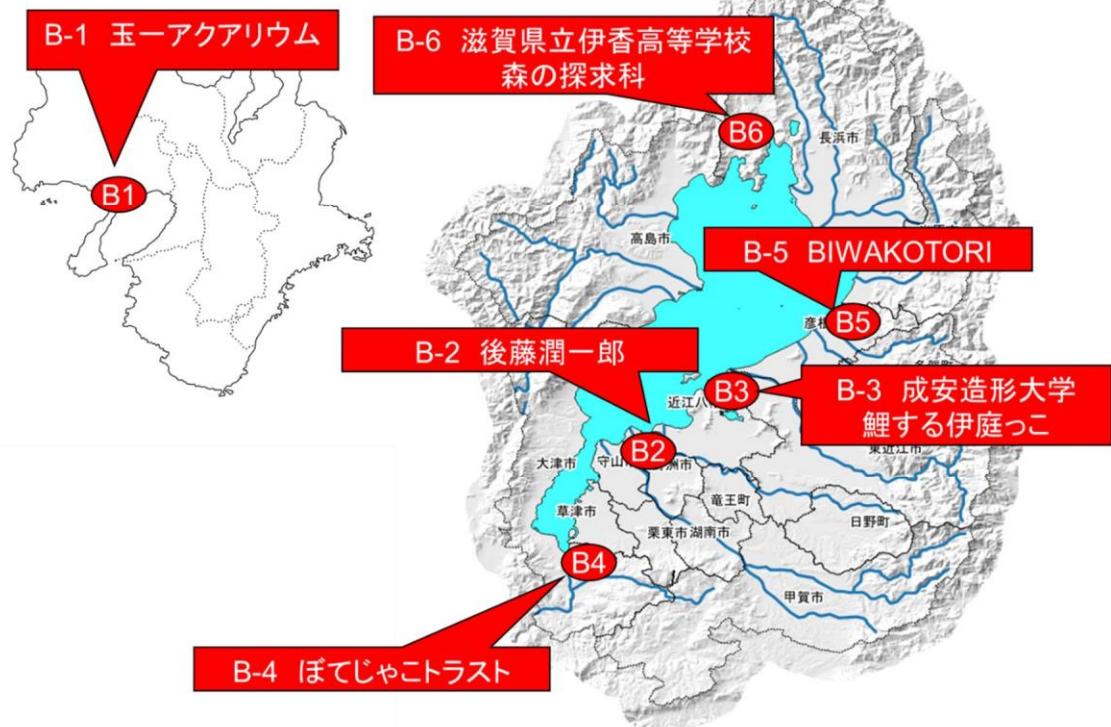
テーブル	グループ名	湖沼・河川・活動地域等	活動内容
テーブルA	A-1 TANAKAMI こども環境クラブ	大戸川 天神川 水路	田んぼの生き物調査、カヤネズミ調査、川の生き物調査
	A-2 京都産業大学現代社会学部鈴木ゼミ	桂川・由良川(美山川・和知川)	京都丹波の「あゆ」発信！
	A-3 野洲川クリーン活動	野洲川の落差工から河口部まで	野洲川河川清掃とまちのコインでの広報をかねたクイズ作成
	A-4 子どもが遊べる川づくりプロジェクト	大宮川、吾妻川、三田川(大津市内)	川の生き物調査と指標生物による川の水質の判定、パックテストなどから、川のきれいさを調査する
	A-5 田村川わくわく探検隊	滋賀県甲賀市土山町南土山集落	下流から上流にかけて歩きながら川魚の採取・観察、ゴミ拾い、交流お茶会など
テーブルB	B-1 玉一アクアリウム	二級河川 明石川(明石川水系) 神戸市西区玉津町	明石川水系の生物多様性保全活動
	B-2 後藤潤一郎	琵琶湖・野洲川・田んぼ 草津市集落付近	水辺で楽しく遊びながら学んでいます
	B-3 成安造形大学 鯉する伊庭っこ	能登川町付近の瓜生川と伊庭内湖 また、東近江市伊庭町の水郷景観にある水路やカワト	企画デザインの勉強と開発。また地域のアートプロジェクト活動
	B-4 ぼてじゃこトラスト	ぼてじゃこ池:大津市瀬田、溜池:大津市大石、新免、伊香立、用水路:大津市羽栗、川:高島市和田打川、琵琶湖:宮ヶ浜	イチモンジタナゴ繁殖・放流、魚類調査・研究、自然体験教室
	B-5 BIWAKOTORI	彦根市	琵琶湖の流木をアップサイクルしたバードアスレチックや雑貨の製作
	B-6 滋賀県立伊香高等学校 森の探求科	高時川、大浦川、琵琶湖	森・川・里・琵琶湖のつながりを意識したフィールド調査、探究

テーブルC	C-1	あおむしくらぶ	十津川 草津市 南笠町、矢橋町老上小学校付近	生き物調査、水質チェック、ゴミ拾い、講師を招いての勉強会、啓発活動
	C-2	サテライトサークル しらみね大学村	石川県白山市白峰地域 (手取川流域)	大学生による水源地域振興
	C-3	淡海を守る釣り人 の会	琵琶湖、瀬田川、宇治川、淀川	湖岸や河川敷の清掃活動、水辺の小さな自然再生、ライフジャケット着用啓発、釣り教室など
	C-4	小さな自然再生ネットワーク	中の井川 JR 京都線～大宝小学校～南橋公園まで	1回/月の川をあるく。2回/年の川の生き物調査
	C-5	北川を遊べる川にする有志の会	北川水系 熊川・天増川・椋川	専門職の助言を得ながらバーブ工や魚道設置に向けた準備、河川環境の改善
	計		16団体	

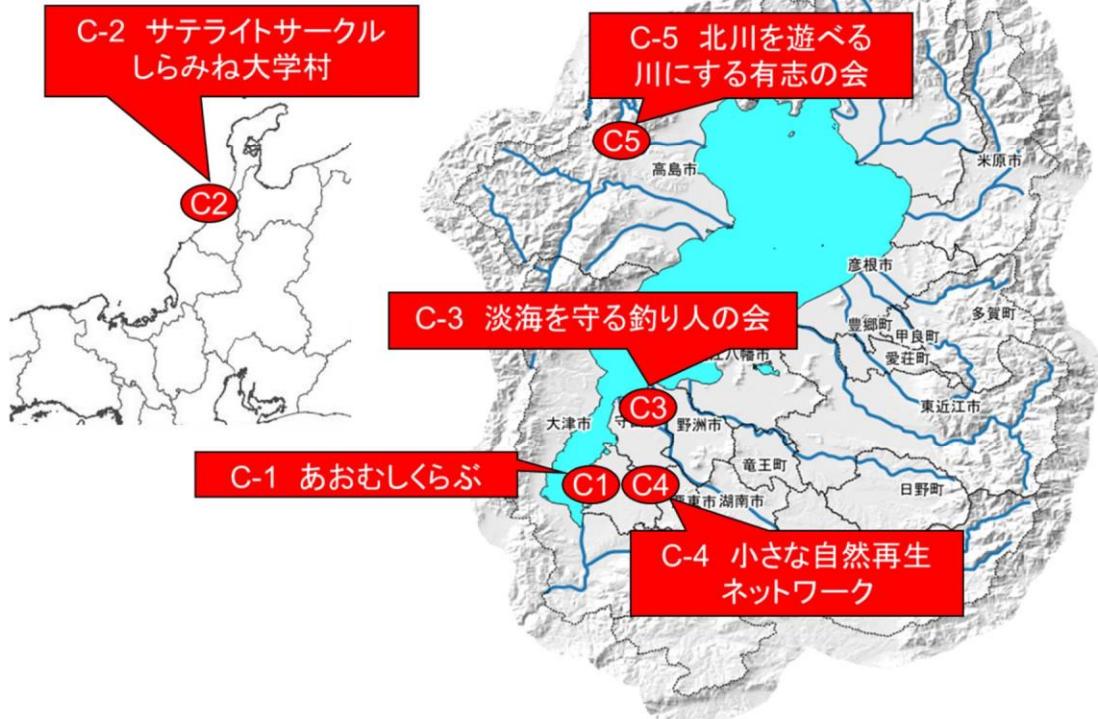
5. テーブル別各団体活動位置図



テーブルB



テーブルC



6. テーブル選考 選考員プロフィール

テーブル A

(テーブル・コーディネーター 兼 選考員)



竹村 光雄（たけむら みつお）／長浜まちづくり株式会社

都市計画家／1982年生。茨城県日立市出身。湖北長浜の濃密なローカリティに魅了され、それらを探究し、創造の源泉として活動する。伝統的町家・路地・水路など都市空間の再生と、それら空間を舞台とした企画やプロジェクトのマネジメントを手掛ける。

(選考員)



春藤 千之（しゅんどう ちゆき）/国土交通省近畿地方整備局 河川環境課長

岡山県岡山市(旧御津町)出身。兵庫県加古川市在住。
国土交通省近畿地方整備局職員。
勤務として由良川、加古川、揖保川、熊野川を経験。
河川利用者として、趣味のランニング・最近は自転車を通して河川を見守っています。



中川 和樹（なかがわ かずき）／NPO法人芥川倶楽部 事務局員

2004年生 大阪府高槻市で育つ。小学生の時に自然観察会に参加したことがきっかけで芥川倶楽部に入会。大学生になり、現在は観察会に参加する子どもたちに魚のとり方を教えている。昨年のいい川いい川づくりワークショップでガサガサ王子として発表。趣味はタナゴ釣りとガサガサ。



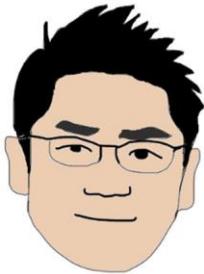
宮尾 陽介（みやお ようすけ）／NPO法人まるよし 理事長

滋賀県近江八幡市にある西の湖のほとりで生まれ育つ。公務員として環境政策を担当していた頃、ヨシの魅力や大切さを再認識し、「ヨシの活用によるヨシ原の保全」を座右の銘としてヨシに関わる活動に着手。2024年4月4日(ヨシの日)にまるよしを設立し、ヨシ原の保全にとどまらず、放置竹林の整備や力ヤック教室の開催など、幅広い事業を展開。2023年10月にMLGs案内人に就任してからは、ヨシとMLGsについての講演を各方面(ロータリークラブ、大学の講義、環境啓発イベントなど)で開催。地元の小学生からは「ヨシ博士」と呼ばれている。

テーブル B

(テーブル・コーディネーター 兼 選考員)

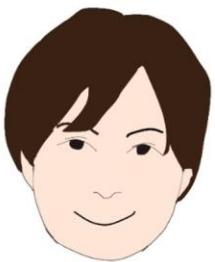
寺村 淳（てらむら じゅん）／大正大学招聘教授



(選考員)

愛知県生まれ、彦根育ち。物心つく前から祖父の魚とりに同行し、鮎すしが好物だった。小学校の自由研究ずっと近所の川の生き物しらべをしていた。大学生の時、伝統的な河川技術である霞堤と出会い、歴史も治水も環境も全部川でつながっていることに気づく。また、学生時代に新潟の水辺のまちづくりをするNPOのスタッフをし、いろいろな世代が自由に楽しめる水辺に魅力を感じている。

熊木 香（くまき かおり）／特定非営利活動法人里山保全活動団体 遊林会 河辺いきものの森



京都府舞鶴市出身。山に囲まれた環境で育ち、毎日、身近な自然の中で遊びながら幼少時代を過ごした。高校卒業後は植物の生産を学ぶため大阪の園芸専門学校に進学。その後、滋賀県のナーセリー型の樹木の生産者に7年間勤務。どうしてこの道を選んだのか深く考えた時期があり幼少期の自然体験が原点にあることに気付く。それ以降、子どもたちと自然に関わる仕事につきたい夢を持ちながら10年の時が経つ。人のご縁により、2016年から東近江市の環境学習施設「河辺いきものの森」に事業所をおくNPO法人 里山保全活動団体 遊林会の職員として勤務。現在は里山保全活動に取り組みながら、その森を活用し年間を通じて子どもたちに自然と関わる楽しさ、面白さを伝える仕事をしている。

加藤 晶久（かとう あきひさ）／滋賀県土木交通部流域政策局 副局長



滋賀県彦根市出身、大津市在住。滋賀県庁の土木技術職員として勤務。

入庁以来、漁港、ダム、道路、水道、河川、砂防など多岐にわたるインフラ整備事業に携わり、地域の安心・安全な暮らしを支えるとともに、環境に配慮した整備にも力を入れてきました。

現在は、①洪水・土砂災害などの被害軽減策 ②安定的な水資源の確保③環境（自然・利用）との調和した流域 の3つがバランスの取れた川づくりができるかと漠然と思案中。

駒井 健也（こまい たつや）／フィッシャーアーキテクト 代表／志賀町漁業協同組合 監事／滋賀県漁業協同組合連合青壮年会 代表監事



滋賀県立大学環境建築デザイン学科、大学院を卒業後、琵琶湖の漁師に弟子入りし、2020年独立。「琵琶湖の中から淡水の暮らしを届けます」という理念のもと、琵琶湖伝統漁法エリ漁を軸にした淡水魚30種類ほどの販売、規格外の加工品の開発販売、マルシェ出店、EC販売、漁体験、琵琶湖の滞在を通じたアート作品展示サポート等を行いながら、音声メディア「さとんちゅラジオ」、文章メディア「100年後に読む琵琶湖日記」のマルシェ企画運営の場づくり等を行いながら琵琶湖と共に生きる暮らしの魅力を発信中。

テーブルC

(テーブル・コーディネーター 兼 選考員)

中井 健太（なかい けんた）／合同会社 andstep 代表



大阪府茨木市出身。2000年24歳。

大学卒業後に大阪から滋賀県長浜市に移住し合同会社 andstep を設立。「オモシロイ教育でオモシロイ地方にする」をビジョンに教育×まちづくりの事業を展開。

2023年からは長浜市駅前の高校生・大学生向けのサードプレイス「itteki」をリーダーとして運営。若者とまちづくりをソフトとハード面から行う。

(選考員)

森川 学（もりかわ まなぶ）／湖北農業農村振興事務所 田園振興課



滋賀県長浜市に在住の滋賀県職員です。農業土木系職員として、平成10年4月から公務員生活を始めました。その範囲は、かんがい排水や区画整理、農業水利施設の管理等、農業土木全般にわたります。その間、JICAの専門家養成プログラムにてインドネシアでの派遣経験があり、また湖北環境事務所にて3年間の勤務経験も持っています。その活動により、水利関連の知識だけでなく、歴史、文化史、生活史などから見た農業土木の全体像について理解を深めてきました。滋賀県の川づくりについて、みなさんの意見を楽しみにしております。

中村 俊哉（なかむら としや）／NPO 法人 国際ボランティア学生協会（IVUSA）

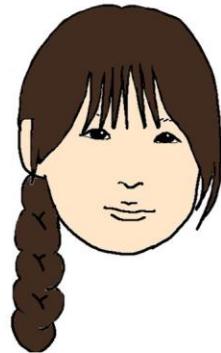


大阪府出身。水環境に关心を持ち、大学・大学院では琵琶湖およびバングラデシュを対象に、水質調査や浄化の研究に取り組む。

2013年、学生時代に外来水草オオバナミズキンバイが大繁殖している問題を知り、「学生の力で琵琶湖を守りたい」とNPO法人国際ボランティア学生協会（IVUSA）でプロジェクトを立ち上げ、仲間とともに全力で除去・啓発活動に取り組む。

現在は、琵琶湖・鴨川のオオバナ除去活動やMLGs関連の取り組みを、IVUSAの大学生（後輩）たちが楽しみながら挑戦できる事を意識しながらサポートしている。

滋賀県内の多くの関係者の皆さまのご協力に支えられ、活動が継続できていることに、心から感謝している



梅田 侑里（うめだ ゆり）／滋賀県琵琶湖環境部環境政策課**MLGs 案内人**

滋賀県守山市出身。琵琶湖の近くで育ち、幼少期から琵琶湖に親しんで生活してきた。2025 年度滋賀県庁に入庁。現在は、琵琶湖環境部環境政策課に所属している。

業務では主に「びわ湖の日」の普及啓発や環境学習の仕事を担当しており、びわ湖の魅力や環境保全の大切さを日々実感している。2025 年 10 月より MLGs 案内人として個人活動を開始。

今後は地域の環境保全や持続可能な社会の実現に向けて取り組みたいと考えている。

7. 総合コーディネーター・全体討論 選考員

(総合コーディネーター)

**青田 朋恵（あおた ともえ）／滋賀県立陶芸の森 副館長・琵琶湖システム広報大使**

京都市生まれ。

ここ滋賀(首都圏発信拠点)所長として勤務ののち、2022 年度末に滋賀県職員を退職。現在は、甲賀市信楽にある滋賀県立陶芸の森で副館長として勤務。

世界農業遺産に認定された「琵琶湖システム」の発信に広報大使として取り組んでおり、湖魚の生育を育む「魚のゆりかご水田」をはじめとする農山村地域の活性化などにも携わっています。モットーは「食べることで琵琶湖を守る！」

滋賀の伝統食であるフナズシをはじめ、ビワマスなどにも目がなく、美味しいものの噂を聞けば、県内各地、何処にでも出没します！

大好物の琵琶湖の恵みや近江米などの「食」と、それに関わる地域の方々との出会いを生涯大切にしていきたいと思っています。

(全体討論選考員)

**深川 光耀（ふかがわ こうよう）／花園大学 准教授**

1980 年佐賀市生まれ。京都市在住。阪神・淡路大震災で被害を受けた、神戸市真野地区の「住民主体のまちづくり」に学ぶ。

民間まちづくりコンサルタント、京都市まちづくりアドバイザーを経て、現職。京都・滋賀と地元佐賀の2地域を拠点としてまちづくりに取り組んでいる。

小さい頃、佐賀平野のクリークに棲む魚たちに取り憑かれる。

最近は、佐賀市内のクリークをいかした(川を表にした)まちづくりについて妄想中。

近藤 美麻（こんどう みお）／地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所



愛知県生まれ。実家横を川が流れしており、コンクリート3面張りながらもそこに集う様々な生物を身近に感じながら過ごす。大学進学で移り住んだ岐阜で、水田地帯の生物の豊かさに衝撃を受け、主に淡水二枚貝を対象に水田生態系保全の研究に取り組みつつ、自然豊かな川でリフレッシュする日々を過ごす。現在は大阪府立環農水研生物多様性センターに勤務し、府内の水辺にすむ生物の調査研究や、生物多様性教育・普及を担当している。

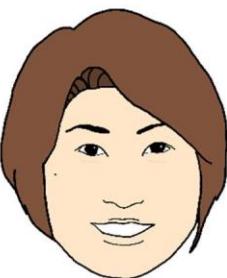
北村 美香（きたむら みか）／治水利水から学ぶ・楽しむ実行委員会/結 creation



京都市生まれ。学生時代の遊び場だった琵琶湖のことをもっと知りたいと思い、研究の場に琵琶湖博物館を選ぶ。川や生き物に夢中になっている人たちを観察しているときや、地域の大先輩たちに体験談を聞かせていただいているときが一番楽しい時間。

学芸員としての経験を活かし、人と地域と博物館、暮らしと自然をつなげるお手伝いをしている。

山岸 理恵（やまぎし りえ）／福井県土木部河川課 ダム建設管理・足羽川ダム対策参事



滋賀県のお隣から來ました、福井県の土木系職員です。平成7年4月に福井県庁に入庁し、様々な事業を経験しましたが、平成16年7月の福井豪雨以降、河川行政に従事する機会が多くなり、特に令和2年からは流域治水の取組みをいかに広げるか、市町等とともにその仕組みづくりに力を入れてきました。

流域治水に関わってきたため、瀧先生のご講演や令和5年の福井でのイベント「ミズベリング越前若狭ネイバーズ」への参加等のご縁もあって、今回このフォーラムに参加することとなりました。福井では、川づくりに取り組む団体さんが少ないので、今日はキラリと光る活動について色々と学びたいと思っています。

8. グラフィックファシリテーター&実行委員会

(グラフィックファシリテーター)

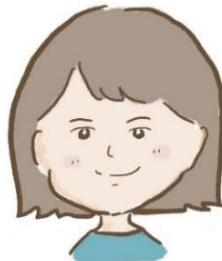
あるがゆう



大阪生まれの宮崎育ち。現在は東京在住。グラフィッカー歴7年目。原体験から「自分の考えや意見を伝えることって、実は簡単なことではないかもしれない」という違和感を持ちながら、グラフィックファシリテーターとして”らしく在れる場づくり”を探求中。研修やワークショップ等の、設計から当日のグラフィックまでを担う。

- ・趣味が高じて、ビアソムリエの資格を取得。
- ・共創型ビジュアルプラクティショナー養成講座1期修了。
- ・CULTIBASE SCHOOL ファシリテーション型マネジメントコース1期修了。

永阪 佳世（ながさか かよ）



滋賀県出身。社会福祉士として児童福祉や教育分野の仕事に携わる。また、多様な人が集まる場で立場に関わらず、納得感をお互いに作り合えるような場を作りたい思いから、話の見える化(グラフィックレコーディング、グラフィックファシリテーション)での対話の場づくりを実践中。

まちの未来を考える住民対話や、大学生の学びの場などをサポート。

(ホワイトボードファシリテーター)

辻 光浩（つじ みつひろ）／滋賀県土木交通部流域政策局 局長・「奥村堤」の会 広報部長



滋賀県東近江市、愛知川沿い在住。滋賀県職員。

子どもの頃から愛知川をフィールドに活動。地域住民で構成する『奥村堤』の会広報副部長。年5回、愛知川堤防の清掃・点検を実施し、川の中から川の外を見て気付いたことを発信しています。滋賀県庁入庁後は、主に河川や琵琶湖に関する計画策定に従事。土木技術系職員。

(実行委員会)

委員長



委員長代理



委員長代理



**北井 香 (きたい かおり) / NPO 法人まちづくりスポット大津
マネージャー**

奈良県山添村出身。各地の水害履歴調査の経験から 2008 年に流域治水検討委員会(住民会議)に参加。翌年、住民会議を母体とした淡海の川づくりフォーラム実行委員会を発起し、実行委員長に。仕事では市民活動の支援を行う中間支援団体に勤務。地域の良さを前向きに活かす活動、発信、取り組みを応援したい。

瀧 健太郎 (たき けんたろう) / 滋賀県立大学 教授

川の日(7月7日)生まれ。大学院修了後、民間企業を経て滋賀県庁勤務(18年間)ののち現職。河川・流域政策の実務を長年にわたって担当した(淡海の川づくりフォーラム第1回~第6回まで事務局)。数多くの川や人の様々な出会いを通じ、川の魅力に取りつかれている。また、どんな川であっても、地域に愛される川こそが“いい川”だと信じている。

一伊達 哲 (いちだて さとる) / 滋賀県総合企画部 DX 推進室課

県職員。入庁以来、ずっと県庁内システムの開発や福利厚生などの内部事務をしていたのに、平成25年に流域政策局に異動して以来、人生設計が狂って民間の皆さんと協働する仕事に携わる。意外なことにこれが性に合っていました。平成25年から28年まで淡海の川づくりフォーラムの県担当者、異動した後もフォーラムの仲間に入れてもらって楽しませていただいている。現在は DX 推進課地域 DX 連携推進室長。

実行委員会(流域治水検討委員会(住民会議))

滋賀県の流域治水基本方針の策定に向けた「水害から命を守る地域づくり県民宣言」を提言した、流域治水検討委員会(住民会議)の中から、「住民が次の年も活動するのに元気が出るような場をつくろう」との議論があり 2009 年に発足。

9. 現地会場 フロア全体図（草津市立市民総合交流センター（キラリ工草津））

○全体会 会場（開閉会、全体発表、全体討論時等）



○テーブル選考会場



10. 参加団体活動概要

A-1 TANAKAMI こども環境クラブ

活動のキーワード

- ① 流速調査 ② 生き物調査 ③ 農業家の方のお手伝い

発表内容

夏休みに、降雨量と河川の流速の関係を調べました。気象庁の記録と地域の実際の雨の様子に少し違いがあることに気づきました。天神川では、大雨の翌日は水量が多く、2日目以降は急激に減る傾向が見られました。生き物調査では、大戸川の下流に行くと魚の種類が変化すること、水路にも多様な生物がいることが分かりました。農業の方々と川ざらえにも参加し、水路の役割や地域の自然とのつながりを実感しました。雨と川、生き物の関係を通して、地域の環境のしくみを学ぶことができました。

活動中の川や水辺の名称

大戸川 天神川 水路

活動内容

田んぼの生き物調査、カヤネズミ調査、川の生き物調査

みんなに来てもらいたいイベント

- ・5月17日 田植え
- ・5月24日 水路探検

よいとこ探しキーワード メモ！





天神川



川の水の量について調べました。

天神川下流は、カヤネズミがすみよい環境ということがわかりました。

2007年頃

2025年



あなたはどちらの風景が好きですか

大戸川の活動は、河川事務所や大戸川ダム工事事務所の方達と生き物観察会を行いました。

大戸川



田んぼの水路



7月6日



田植え、稻刈り、サツマイモ掘りをしながら水路の生き物調査をしました。



A-2 京都産業大学現代社会学部鈴木ゼミ

活動のキーワード

- ① 京都丹波の鮎 ② 子どもたちへの発信 ③ ブランディング戦略

発表内容

- ① 私たちは「京都・丹波あゆ街道」に取り組む際、大学生ならではの視点を大切にしている。特に「鮎」の魅力を広く知つてもらうため、私たちが企画したシンポジウムや出展者として参加したイベントでは、子どもたちを主な対象とした。
- ② 鮎関係者にヒアリングを行い、鮎と暮らしに関する冊子(20 ページ)を作成中
- ③ 子どもへの手法として、塗り絵、クイズ、釣りゲームなどの遊びの要素を取り入れることで、子どもが「鮎」へ興味を引きやすいよう工夫をした。
- ④ 「京都丹波の鮎」の魅力を広く伝えるために Instagram での発信に注力した。これまで約 100 回投稿し、「鮎」、「食」、「自然」、「紹介」、「ゼミ」など 5 つのジャンルを曜日ごとに発信するなど、多くの人に見てもらえるよう工夫をした。

活動中の川や水辺の名称

桂川・由良川(美山川・和知川)

活動内容

京都丹波の「あゆ」発信！



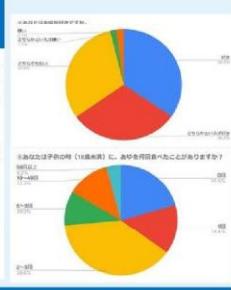
よいとこ探しキーワード メモ！

京都丹波の「あゆ」発信！ 京都産業大学鈴木ゼミ

はじめに

京都丹波地域の鮎は、平安時代から京都御所に献上されるなど歴史的に高い評価を受けてきた。美食家・北大路魯山人も「丹波和知川の活鮎」として東京で提供するほどの逸品で、近年では全国大会で準グランプリを受賞するなど、味でも注目されている。京都府と鈴木ゼミが協働し、桂川・由良川流域に居住する住民の『共有財産』である「京都丹波の鮎」のブランディング戦略の方向性を鈴木ゼミの提案をもとに5つのコンセプトを定めた。

鈴木ゼミは2024年7月から12月の間にアンケートを実施し、474人から回答を得た。その回答により鮎を好きな人は多いが、鮎を子供の時に食べた回数が少ない人が多かった。そのため子どもたちをターゲットに主に「買う」「支える」「発信する」などの事業を行っている。



京都丹波鮎のブランディング

子どもや若者を対象に、「買う」「食べる」「支える」「発信する」「開発する」の5つの視点で事業を展開し、次世代への継承を目指している。

「買う」

- ・キーホルダー
- ・クリアファイル
- ・シール
- ・和菓子

「食べる」

- ・スタンプラリー



※「開発する」は今後の展開となる

「支える」

- ・冊子
- ・オリジナルスタンプ
- ・シンポジウム



「発信する」

- ・Instagramの開設
- ・テレビ・ラジオ出演(10回)
- ・新聞(8回)
- ・イベント参加(8回)
- ・万博会場での出展等

買う

鈴木ゼミは子供たちに鮎を身近に感じてもらえるようデザインを考案



PRグッズ



鮎の和菓子

発信①

鈴木ゼミは、京都府南丹広域振興局と連携の下、京都丹波の魅力発信を行う目的でInstagramのアカウント、「京たん・あゆぐらむ」を作成。「あなたの身边に京・丹波」をコンセプトにし、近年は京都丹波に関する自然や食を中心に約100回の情報を発信している。



支える

鈴木ゼミはこれまでの研究成果の報告と鮎を広めるため、シンポジウム「京都丹波 あゆの魅力発信」を開催。参加者は約115名



あゆキャラコンテスト

内容

鈴木ゼミの活動報告、基調講演、子供たちからの質問、あゆキャラコンテスト、大学生による対話セッション、漁協の活動報告、「京都丹波 あゆ街道」の紹介



シンポジウムの様子

発信②

鈴木ゼミは、「京都丹波 あゆ街道～京都の鮎を世界に発信～」をテーマに、関西パビリオン多目的エリアでブース展示とワークショップを企画した。ワークショップでは、3種類の水を飲み比べる「利き水体験」、「鮎の甘露煮の実食」、「扇子のデザイン体験」を実施した。



鮎をデザインした扇子

ふりがな 川や水辺の名称	かつらがわ・ゆらがわ(みやまがわ・わちがわ) かつらがわ・ゆらがわすいけい 桂川・由良川(美山川・和知川)(桂川・由良川水系)	京都丹波の「あゆ」発信
所在地	京都府 亀岡市・南丹市・京丹波町	
応募者名(ふりがな) 所属団体名	きょうとさんぎょううだいがくすずきぜみ 京都産業大学 鈴木ゼミ	

A-3 野洲川クリーン活動

活動のキーワード

- ① 清掃活動 ② 人の縁 ③ まちのコイン

発表内容

私は、今年4月に野洲川河川レンジャーの根木山さんの協力を得て、初めて清掃活動を募集、主催し実行しました。

その参加者の中で、お二人を会員にお誘いし、「野洲川クリーン活動」というグループを立ち上げ、守山市の令和7年度さんさんまちサポ助成金に申請し、受理されました。

ここまで来れたのは、一つにはピエリ守山で開催された第15回淡海の川づくりフォーラムを一般傍聴しに行き、そこで「日野川流域まもり隊」の一人から活動を立ち上げられた経緯を知り、自分もそれまで、一人で野洲川のゴミ拾いをしたり、色々な団体の清掃活動に参加していたのですが、野洲川を綺麗にするには人を集めないと駄目だと考えグループ作成にいたりました。

まちのコインでは、知名度を上げるために野洲川に関係なく、まちのクイズで出題を頻繁にしております。

活動中の川や水辺の名称

野洲川の落差工から河口部まで

活動内容

野洲川河川清掃とまちのコインでの広報をかねたクイズ作成

みんなに来てもらいたいイベント

・11月から3月までの期間(まだ開催日は未定)

・「第2回野洲川クリーン活動」

野洲川左岸の落差工から川田大橋の間の令和7年度2回目の堤防法面の除草工事が終わりましたら、堤防法尻にゴミが溜まっているので、清掃活動を実施したいです。

よいとこ探しキーワード メモ！



野洲川クリーン活動

背景



2022年5月に、守山市「湖岸緑地野洲川河口」湖岸の大量漂着ゴミに衝撃を受けました。その後、守山市近辺の清掃活動の情報をネットで調べ、県や守山市主催の清掃活動、「淡海を守る釣り人の会」の「滋賀セブンの森」や清掃活動、「びわこ豊穣の郷」の田川モデル河川、「やす緑のひろば」の野洲川北流跡自然の森の整備、「フィールドワークやす」の河川清掃、「守山をキレにし隊」のびわこ地域市民の森で清掃活動等に参加し、それ以外に約1年間ほど湖岸を個人でゴミ拾いをしました。湖岸で拾ったゴミが土砂で汚れていれば、水で洗ったり、乾かす手間があり、いくら拾っても強風や大雨の後等に漂着ゴミがあることも。そんな中、野洲川の高水敷や低水路の中洲で幼木踏み倒し工事がされ、大量のゴミがあるのを見て、それを拾っていくうちに、徐々に野洲川下流域（近江富士大橋から河口まで）の方がメインになりました。工事後から草や木が伸長してゴミが発見、拾い辛くなる5月中旬までに、一人では拾い切れない事から、琵琶湖河川レンジャーの根木さんの協力を得て、今年4月に野洲川河川清掃の一般募集をしました。その参加者の2名が加入して下さり、「野洲川クリーン活動」を立ち上げました。

目的



野洲川、琵琶湖岸がゴミの落ちていない綺麗な状態にしたい！

活動内容



団体自体の活動は、今年4月に野洲川河口の中洲大橋両岸で清掃活動をしたのみですが、守山市の令和7年度さんさんまちサボ助成金チャレンジ応援事業に応募し採択され、助成金でビブス、のぼり旗を購入出来ましたので、個人で野洲川のゴミ拾いをしている際にもビブス着用したり、やす緑のひろばの活動や水上レンジャーの野洲川河川清掃参加時も着用しています。それ以外には、滋賀県の導入されているデジタル地域通貨まちのコイン「ビワコ」のスポットになり、オンライン上でゴミを拾った人にビワコを報酬として貰ったり、PR目的で「まちのクイズ」に頻繁に出題をしています。

これから



毎春、比良おろしによって野洲川河口に大量の漂着ゴミがあるので、それを拾うのを定例活動にし、タイムラプス撮影してyoutubeにアップします。夏に河口部の水草群生地に漂着ゴミがあったので、将来はカヤックかSUPで回収するイベントを開きたいです。野洲川右岸の近江妙連大橋周辺に頻繁にゴミが捨てられるので、定期的にボランティアで草刈りをし、抑制します。会員を増やして、いすれば竜王清流会のように堤防表法面の護岸コンクリートに溜まった土砂を除去するのもしたいです。野洲川周辺で実施する工事・工作物からのゴミ発生防止と除草工事の際、同時に散在性ゴミの回収をするように琵琶湖河川事務所、県及び守山市へ要望します。ポイ捨て禁止条例を近江八幡市や和歌山県のように、違反者へ適用実績が無い罰金ではなく、行政罰の過料にし、取り締まり、徴収するのも駐禁の線のおじさん同様に警察官でもなく出来るように、県や守山市へ働きかけます。具体的には県、市長への手紙。県、市議会議員への要請、陳情。それらでも駄目なら直接請求制度でポイ捨て禁止条例の制定、改定を署名活動します。



A-4 子どもが遊べる川づくりプロジェクト

活動のキーワード

- ① 身近な小河川 ② 水生生物調査 ③ 指標生物による水質調査

発表内容

子どもを中心として、地域の身近な川の水生生物を観察し、その中にいる指標生物を調査することで、川のきれいさを調べて知る活動の支援を、当プロジェクトは長年続けてきました。子ども達が小さな生き物観察の面白さを知って興味を深め、年ごとに変わっている水辺の生態系を実感することから、身近な川を守り大切にする意味を伝えたいと考えています。

活動中の川や水辺の名称

大宮川、吾妻川、三田川（大津市内）

活動内容

川の生き物調査と指標生物による川の水質の判定、パックテストなどから、川のきれいさを調査する

みんなに来てもらいたいイベント

- ・時期未定。
- ・大宮川の生き物調査、琵琶湖の生き物調査（おおつ環境フォーラム主催のイベントで、当プロジェクトが関わっている）

よいとこ探しキーワード メモ！



子どもが遊べる川づくりプロジェクト

豊かな河川環境と生物多様性を守るために、子どもも大人も、川で「遊び・親しみ・学ぶ」ための支援活動をしています



晴嵐小学校・三田川中流の生き物調査(2024)
三田川の水は水質階級Ⅰと水質階級Ⅱの間と判定

おおつ環境フォーラムは、2001年に大津市環境基本行動計画「アジェンダ 21 おおつ」に基づいて設立され、2013年に法人格を取得、「特定非営利活動法人・おおつ環境フォーラム」が発足、市の指定事業をうけ大津市地球温暖化防止活動推進センターとしても事業を実施中。9プロジェクトや研究グループが活動をしています。会員約200名。

川プロジェクトは、2002年より「三田川の生きものマップ」作成を目標に、大津市晴嵐学区を流れる三田川を活動拠点に、上流・中流・下流で生き物の観察を始めました。2005年から、晴嵐小学校4年生の総合学習「地域の川の生き物調べ」の学習支援依頼をうけ、これまで毎年150名程の生徒たちと一緒に三田川の川の生き物調査を続け、逢坂小学校、真野小学校、中央小学校でも川の調査の学習支援も毎年続けています。2016年には、晴嵐学区の三田川、逢坂学区の吾妻川、伊香立・真野・堅田学区の真野川の調査結果をまとめ、「河川の生き物マップ」3部作を発行し各小学校に配布、学習支援に活用しています。

＜川プロジェクトの活動＞

- ◇市内小学校4年生の「身近な川の水生生物調査から川について学ぶ」体験学習の支援
- ◇市内河川の水生生物観察会・市民環境塾・自然家族事業を開催
- ◇自主研修の観察会を実施



中央小学校・吾妻川下流の生き物調査(2025)
吾妻川下流の水は、水質階級ⅠとⅡの間と判定。



自然家族事業・大宮川の生き物調べ(2025)
大宮川は、水質階級Ⅰのきれいな水と判定。



真野川生きものマップ

吾妻川生きものマップ

(水生生物編)

三田川生きものマップ

(水生生物編)

(陸・水の両方)

A-5 田村川わくわく探検隊

活動のキーワード

- ① 在来種保護 ② 産業廃棄物最終処分場問題 ③ 川がつなぐ輪

発表内容

滋賀県甲賀市の田村川で活動しています。

長年、各地で淡水魚の観察をしていると、田村川は数少ない絶滅危惧 II 類のアジメドジョウ(G タイプ)の多産地でかつ在来種が豊富な川だという事が分かります。希少な魚を守るために、近年は地域住民の方と観察会をしたり、コクチバスの駆除活動、ゴミ拾い等をして川好きな人の輪を広げています。

現在、川の間近で最終処分場の計画があるため様々な心配がされていますが、川の魚もこの景色も、川遊びの場所も、未来の子ども達に残すためにはどうすれば良いのかを皆で考え続けています。

モットーは、楽しく、ゆるく、大人も子どもも夢中になる川遊び。

皆さんも一緒に田村川の魚たちに出会ってみませんか。

活動中の川や水辺の名称

滋賀県甲賀市土山町南土山集落

活動内容

下流から上流にかけて歩きながら川魚の採取・観察、ゴミ拾い、交流お茶会など

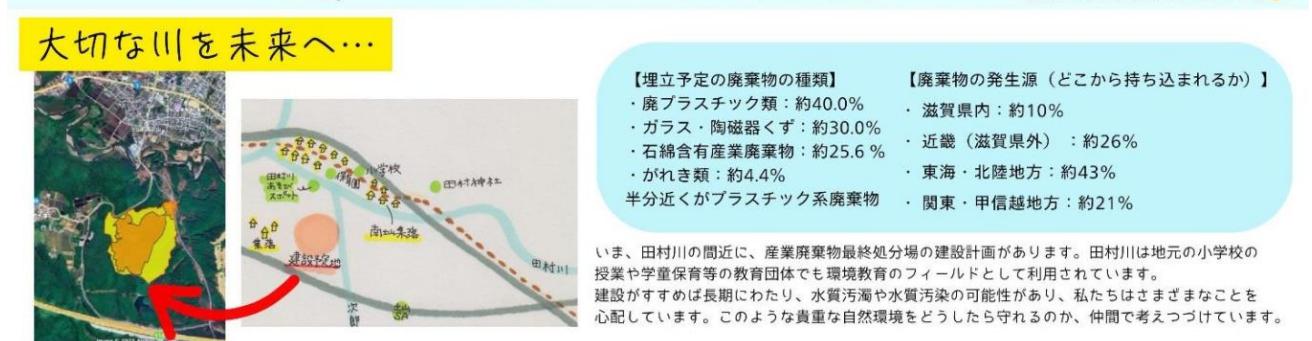
みんなに来てもらいたいイベント

- ・月に一度程度、土日がメインの不定期の活動です。冬場の活動は相談中です。
- ・参加、ご興味ある方は、グループ LINE 等で活動日をお知らせします。お気軽にお声がけ下さい！

よいとこ探しキーワード メモ！



田村川通信



田村川わくわく探検隊

B-1 玉一アクアリウム

活動のキーワード

- ① 明石川と共に生きる ② 川は私たちで川る ③ 私たちも川で川る

発表内容

私たち玉一アクアリウムは、1年を通して週に1度以上は明石川水系で川の中に入って調査をし、生物多様性保全活動として、外来種の駆除と在来種の保護をしています。

私たちがずっと活動を続けてきたので明石川が更に在来種でざわめく川に変わってきました。

それと同じく明石川のおかげで環境や生き物に対する強い思いや、仲間をお互いに思いやるやさしい気持ちが芽生えるなど、私たちも変わることができました。

活動中の川や水辺の名称

二級河川 明石川(明石川水系) 神戸市西区玉津町

活動内容

明石川水系の生物多様性保全活動

みんなに来てもらいたいイベント

- ・毎週土曜日か日曜日
- ・明石川水系の生物調査

よいとこ探しキーワード メモ！



B-2 後藤潤一郎

活動のキーワード

- ① 魚大好き ② 水辺が大好き ③ 食べるの大好き

発表内容

僕と生き物をテーマに大好きな魚と水辺、そして魚を食べることを発表します。

活動中の川や水辺の名称

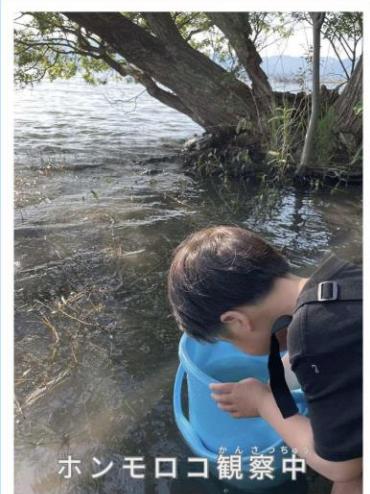
琵琶湖・野洲川・田んぼ 草津市集落付近

活動内容

水辺で楽しく遊びながら学んでいます

よいとこ探しキーワード メモ！





ごとうじゅんいちろう (6歳・年長)
さい ねんちょう
「ぼくとみずべ」



B-3 成安造形大学 鯉する伊庭っこ

活動のキーワード

- ① 鯉食文化調査 ② 伊庭町の水辺の暮らし調査 ③ お土産パッケージデザイン

発表内容

私たちは、地域の見えない魅力を発信する商品を開発する大学の活動にて、滋賀県東近江市伊庭町の水辺での暮らしに着目し、伊庭町の水辺の暮らしを針江地区との比較も含め調査した。その中で鯉と共に食す文化が地域の魅力として注目してもらえるのではという仮説を立て、鯉料理の「煮付け」を食べやすい麩菓子に変えたファミリー向けのお土産のパッケージをデザインし、マルシェにて品評会を行った。

活動中の川や水辺の名称

能登川町付近の瓜生川と伊庭内湖 また、東近江市伊庭町の水郷景観にある水路やカワト

活動内容

企画デザインの勉強と開発。また地域のアートプロジェクト活動

よいとこ探しキーワード メモ！



私たち は…

成安造形大学学生主催

「鯉する伊庭っこ」プロジェクト

成安造形大学の総合領域に所属する学生三年生が主催となって、「伊庭特有の暮らしを全国に発信し、伊庭内部のコミュニティを活性化させる」ことを目的に結成されたアートプロジェクト集団

普段は「体験を作る」デザインの勉強をしています



滋賀県大津市おごと温泉にある芸術大学「成安造形大学」総合領域総合デザインコースは、「コト」「モノ」「情報」のデザイン分野を横断的に学び、企画提案力を身につけ、自ら企画を設計し実践する…そんな学校です。

「鯉が食べたい」がきっかけでした



「地域の見えない魅力」を新たな面白い体験が生まれる商品デザインを作る授業の中、伊庭町に住む生徒の「川から取ってきた鯉を食べる習慣がまだにある」という調査報告から、「食べてみたい」というメンバーが集まって朝一始めたのが始まりです。



調査する

伊庭町特有の鯉文化をお土産に

1 現状と理想

住民同士が関わる機会が少なく、観光客もあまり来ないため鯉文化が珍しいと思わないのでは?

現状

伊庭の鯉文化が身近すぎて、地元の人の興味関心がない

理想

伊庭自慢の鯉でウハウハ自慢できるものとして伊庭の食文化を認識する

2 仮説・仮説

地域外部に鯉との共存文化の価値を伝え、伊庭の知名度を向上されれば、相互作用で地元住民の意識が代わり、伊庭の鯉文化存続につながるのでは?

推測

鯉を食べて共存する文化を、外からの声で伊庭町の人々に自覚してもらう

仮説

みんなで褒め褒めすれば伊庭人ウハウハで鯉を愛でる説

3 企画立案

伊庭町を代表するお土産を作り、お土産を通じて魅力を感じてもらう

話題

お土産を活用した企画で注目を集めよう。

興味

お土産にしたり、写真を撮りたくなるパッケージに。

定義

伊庭のお店で販売。伊庭の人も手土産に使う。

調査する

パクパク鯉する日常



伊庭町特有の鯉食文化



伊庭城で水路が設備された約640年前から鯉は食べられ続けている。

その時代から続く「伊庭坂下し祭り」では鯉を生きたまま紐で縛り、神様に献上する。

川で獲れた鯉を井戸に移して、泥を吐かせてから捌いて食べる文化が近年まで存在していた。

「わげさ」は愛される伊庭のごちそう



醤油、みりん、酒などの調味料で甘辛く煮詰められた常温保存できる鯉の煮物で、お祝いの席などでもたい日に食べる。

蒸後や乾燥中に良いとされたので、卵が見えるよう輪切りでつくられ、伊庭では「わげさ」と呼ばれている。

他の鯉文化との比較



食器についた残飯を鯉に食べさせる

こちらの地区も鯉を活用している



育てた川の鯉を食べる風習がある

針江では鯉は蒸し、食べる時は伊庭だけ

滋賀県東近江市伊庭町

滋賀県高島市針江地区

考査する

伊庭町特有の鯉文化をお土産に

制作する

鯉するふふ麩

パクッとわげさ味



鯉するふふ麩
パクッとわげさ味

ぱくぱく遊べる 鯉するパッケージ

箱を開けば、鯉を求めてパクパク口を動かす鯉がいっぱい。中には伊庭名物のわげさを再現した、鯉の餌にもなる麩菓子が口いっぱい。



箱を開くと謎の商品説明書が…

お皿にお菓子を写してもよし

箱のパッケージをお皿にするもよし

底には輪切りにされた鯉の身がわげさになっちゃった

ぱくぱくおいしい 鯉する麩菓子



他にはない旨みと、お熟のツクツク食感でぱくぱく食べる手が止められない!
醤油の香ばしい香りと生姜が広がる
鯉の甘辛味「わげさ」の美味しさを麩菓子で再現しました。

B-4 ぼてじゃこトラスト

活動のキーワード

- ① 魚つかみ文化 ② 次世代 ③ つなぐ

発表内容

本会は1996年に設立で来年30周年を迎えます。組織は大きく分けて魚類調査・研究、イチモンジタナゴ野生復帰を行うトラスト会員(大人)、親子自然体験活動を主に行うワンパク塾(親子)があります。イチモンジタナゴは滋賀県で絶滅危惧種であり、専用の池で繁殖を行い、専門家の指導の下、魚類学会放流ガイドラインに従って、復元放流を実施しています。活動する中で観察会・環境学習の指導、地域支援活動の支援を行っています。ワンパク塾では滋賀県内で定期的に魚捕り・釣り等を行い、親子で自然を体験し、親しんでいます。また、スポンジエイジ活動にて幼児に魚に親しんでもらう、他団体への支援活動を行っています。

活動中の川や水辺の名称

ぼてじゃこ池:大津市瀬田 溜池:大津市大石、新免、伊香立、
用水路:大津市葉栗 川:高島市和田打川 琵琶湖:宮ヶ浜

活動内容

イチモンジタナゴ繁殖・放流、魚類調査・研究、自然体験教室

よいとこ探しキーワード メモ！



ぼてじゃこトラスト

滋賀の魚つかみ文化を次世代につなぐ活動

<設立>1996年

<会員数>82家族189名(内子供76名)

*)2025年11月1日現在

<活動拠点>大津市瀬田三丁目



- 主な活動内容
- 滋賀県内の魚類調査・研究
 - 地元の環境は、地域活性化の活動・支援活動
 - 「ぼてじゃこ」から琵琶湖の環境や子どもの未来へつなぐ
 - ボランティア活動(3-6才)や他団体への支援活動

活動の体制・2つの柱

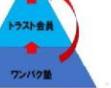
事務局・運営委員

会員:川瀬成吾

企画・相談:北井俊夫・和歌子

滋賀の魚つかみ文化を次世代につなぐ!

「ぼてじゃこ」から琵琶湖の環境や子どもの未来へつなぐ



トラスト会員(大人)

リーダー:田中治男

調査・研究活動

- イチモンジタナゴの野生復帰
- 滋賀県内の魚類調査・研究
- 地域活動の協働・支援活動

ワンパク塾(家族)

塾長:本田喜裕

環境教育・文化継承

- 親子自然体験教室
- 各種発表会で活動成果を発表
- 池での色々な実験

1. イチモンジタナゴの野生復帰

イチモンジタナゴ *Acheilognathus cyanostigma*

絶滅危惧IA類(環境省)

絶滅危惧種(滋賀県)

希少野生動植物種(滋賀県)



滋賀県: ほぼ絶滅状態(一部のため池に残るのみ)

⇒平安神宮に琵琶湖産の個体が残存

⇒琵琶湖博物館で系統保存

⇒ぼてじゃこトラストで約10年にわたり保存・繁殖実験を実施、数千尾まで増殖させることに成功

【ぼてじゃこ池(2009年4月開設)】

イチモンジタナゴの繁殖



【二枚貝】



【保全池整備】



【専門家の指導の下、魚類学会放流ガイドラインに従って、復元放流を実施】



2. 協働・支援活動

(観察会・環境学習の指導、地域活動支援)

<基本思想>

①「地域の環境、地域の生態系は、地域の自分たちで守る」という土壤、風土が高まればと願い、年間20~30回指導に出向いていた

②ギブアンドテイク(無理を言うが、無理も聞く関係をきづく) 賴む方、頼まれる方の熱量・バランスを大事にしている。

③最後は、人と人の信頼感をつくるのが一番

3. ぼてじゃこワンパク塾の活動



【2025年度活動内容】

- <定期活動>
- 5月サツマイモ植え
 - 5月スポンジエイジ生き物ふれあい教室
 - 6月新田んぼの生き物観察会
 - 6月平湖外魚釣り
 - 7月宮ヶ浜地引網
 - 7月ナイトトラップ
 - 8月高島和田打川稚魚捕り
 - 8月水浴きキャンプ場川遊び
 - 9月瀬田川外魚釣り
 - 9月オーパルでのカヌー教室
 - 10月サツマイモ収穫

<その他活動>

- 4月実験: チモンジタナゴと貝の関係木工作
 - 5月夏野菜植え
 - 12月大津駄(予定)
- 毎年続いている理由: 毎年定番化し、スタッフの負担を軽減している。

新田んぼの生き物



宮ヶ浜地引網1



宮ヶ浜地引網2



瀬田川外魚釣り



オーパルカヌー教室



4. スポンジエイジ、他団体への支援活動



B-5 BIWAKOTORI

活動のキーワード

- ① 琵琶湖の流木 ② 流木処分の現状 ③ 琵琶湖の流木の可能性

発表内容

流木と言えば海のもの、というイメージがあるかもしれません、実は琵琶湖にもたくさんの流木が存在します。琵琶湖を囲む山々の木々が、自然災害や伐採などで倒され、川を流れ湖面を漂い、長い年月を経てやがて湖岸に漂着します。

琵琶湖の流木には、自然界の壮大な背景や神秘的なパワーが秘められ、ひとつひとつの存在が正に唯一無二であり、その利用価値に新たな可能性を感じております。しかし琵琶湖の流木は、地域住民の方々にとっては厄介者で、その処分に多くの課題を抱えているのが現状です。

そのような琵琶湖の流木の「二面性」について皆様にお伝えできればと思っております。

活動中の川や水辺の名称

彦根市

活動内容

琵琶湖の流木をアップサイクルしたバードアスレチックや雑貨の製作

よいとこ探しキーワード メモ！

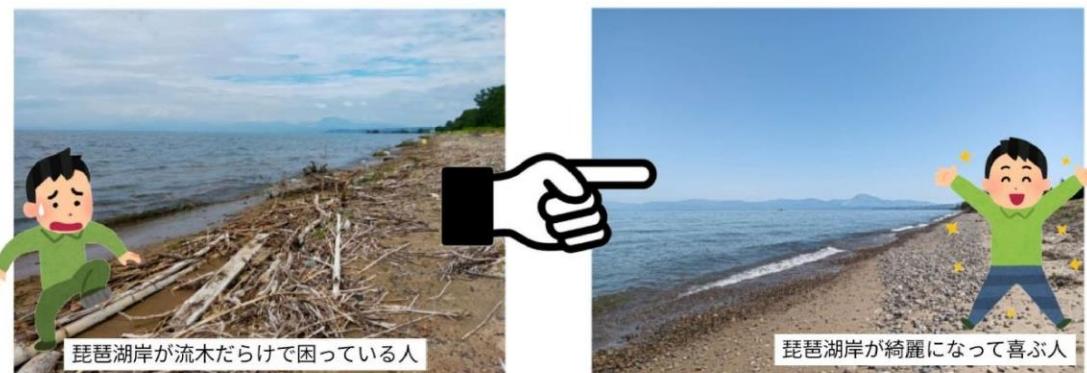


BIWAKOTORIと申します！

BIWAKOTORIは琵琶湖岸に漂着する流木を拾っております。

そのメリットは以下の3つです！

- ① もちろん、もちろん、琵琶湖岸が綺麗になる！
- ② 希少価値の高いバードアスレチックにアップサイクル出来る！
- ③ 琵琶湖の環境問題についての情報発信につながる！



B-6 滋賀県立伊香高等学校 森の探究科

活動のキーワード

- ① 森・川・里・湖のつながりの探究 ② 森林の多面的機能の探究
- ③ 地域資源(自然・人)を活用した教育

発表内容

伊香高校の「森の探究科」は、令和7年4月に創設された新学科です。この学科では、伊香高校がある旧伊香郡(高月町、木之本町、余呉町、西浅井町)周辺の地域資源を生かした教育をめざしています。この地域では木材や木炭の生産、木籠づくり、養蚕など森の恵みを活かした生業、文化が形成されてきました。また、森と農地(里)と琵琶湖が近い距離にあり、それらのつながりを体感しやすい地域でもあります。

このような自然環境、歴史・文化、そしてそこで生計を立てている人々を先生・教材として、体験や人々との交流を重視した教育を進めようとしています。まだ創設されたばかりで、実績は少ないですが、これまでの経緯や展望についてご紹介したいと思います。また、近くを流れる高時川の長期濁水調査の経緯についてもご報告します。

活動中の川や水辺の名称

高時川、大浦川、琵琶湖

活動内容

森・川・里・琵琶湖のつながりを意識したフィールド調査、探究

よいとこ探しキーワード メモ！



滋賀県立伊香高等学校 『森の探究科』の活動紹介

これからの 地球環境と地域のために

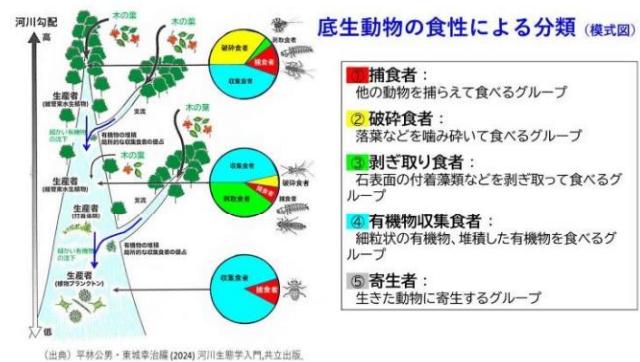
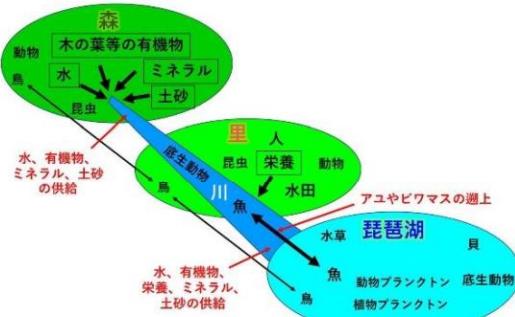
グラデュエーションポリシー (※一部抜粋)

- PICK UP**
- 地域の未来を創造し、持続可能な地域社会を支える環境未来人材を育成します。
・夢を描き、進路目標を実現する自己実現力
・自己の思いを伝えながら、他者の多様性を理解するコミュニケーション力
・人や地域と協働し、新たな創造に向かう課題解決力
・未知の困難に柔軟に対応し、あきらめないレジリエンス力

「森の探究科」カリキュラムの流れ



森・川・里・湖のつながりはどうなっているのか？



①伊香高校の傍を流れる「赤川」の調査

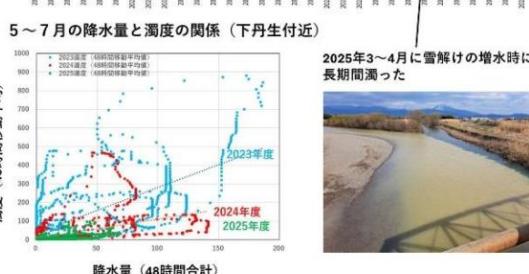
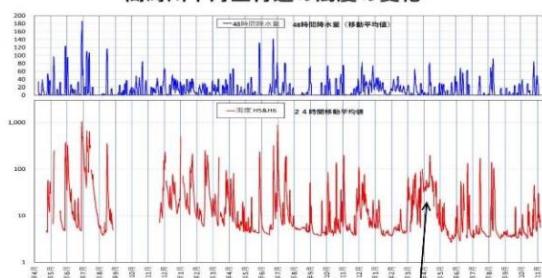


②山門水源の森から琵琶湖に注ぐ「大浦川」の調査

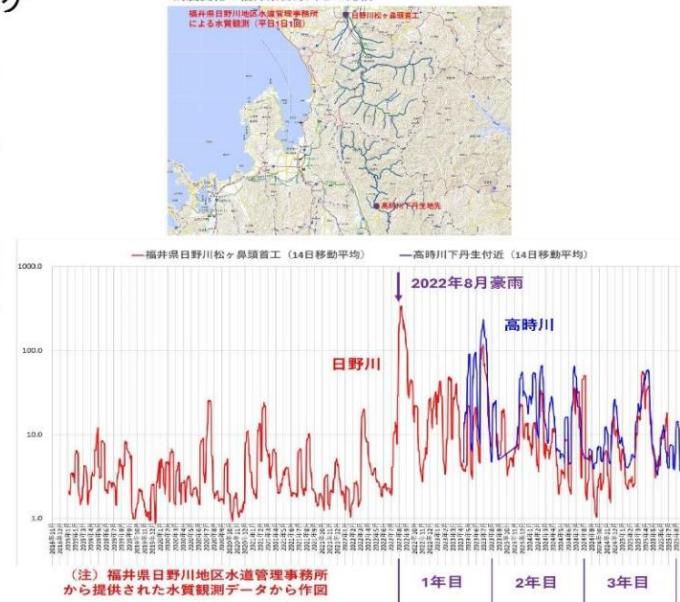


2022年8月豪雨後の高時川長期濁水のモニタリング

高時川下丹生付近の濁度の変化



濁度変化の福井県日野川との比較



C-1 あおむしくらぶ

活動のキーワード

- ① 十禅寺川とそこに棲む生き物たちを守る ② 地域の暮らしと十禅寺川の繋がり
- ③ 子供も大人もイキイキと！

発表内容

あおむしくらぶは身近な生き物に親しむことで、自然や生き物と共に生きること!!をテーマに活動しています。

通常は、虫など陸の生き物を観察しています。その中で出会ったのが「十禅寺川」です。最も身近にある川ですが、日常その存在に気付かないほど無関心でした。

しかし、意識をして見てみるとゴミが多い。綺麗な川ってどういうことだろう？生き物を守るとは？という観点から新たに発足したあおむしくらぶの川部門「十禅寺川いきもの調査隊」について発表します。

活動中の川や水辺の名称

十禅寺川 草津市 南笠町、矢橋町 老上小学校付近

活動内容

生き物調査、水質チェック、ゴミ拾い、講師を招いての勉強会、啓発活動

みんなに来てもらいたいイベント

- ・2026年2月21日(土)
- ・第6回十禅寺川いきもの調査隊～冬の調査～

よいとこ探しキーワード メモ！





あおむしくらぶ 川部門

私たちが暮らす街に流れる川を守りたい！！

十禅寺川いきもの調査隊



十禅寺川は草津市の玉川学区にある
『こもれび池』から、住宅街を通りながら
琵琶湖まで流れている川です。
その途中、老上学区では二手に分かれています、
もともと流れている川を『旧十禅寺川』、
治水のために作られた川を
『新十禅寺川』と呼んでいます。



～これまでの活動～

季節を変えて年に3回生き物調査
水質チェック・ゴミ拾い



「とびだせ！いきもの調査隊」
いつもの活動フィールドを飛び出して
学びを深めました



講師を招いて勉強会



新十禅寺川と旧十禅寺川の
違いを見つけて、
それぞれの良さを発信していきたい！

地域の学校と連携し、
十禅寺川のこと授業で伝えたい！

もっと生き物たちが
棲みやすい川にしたい！

- ・棲みやすい環境作りをする
- ・イシガメを守り育てたい
(2025年11月より勉強会などスタート)
- ・蛍に戻ってきてほしい

この事業は平和堂財団環境保全活動助成事業「夏原グランツ」の助成を受けて実施しています

C-2 サテライトサークル しらみね大学村

活動のキーワード

- ① 水源地域振興 ② 関係人口 ③ 大学生・外部住宅

発表内容

「しらみね大学村」は、大学生が年間を通じて白峰に滞在することによって、白峰地域全体の振興や地域機能維持を図ることを目的に活動している学生団体である。大学生が関係人口として頻繁に訪れ、地域の困りごとについて解決を図っているほか、イベントへの積極的な参加や協力およびイベントの企画運営についてそれぞれ実施している。

白峰地域の属する白山市は、市内全域が「白山手取川ジオパーク」として認定されている。このジオパークにおいて、ジオストーリーの源泉ともなる水源地域をさらに盛り上げ、ジオパークに関わるあらゆる活動に弾みをつけたいと考えている。

活動中の川や水辺の名称

石川県白山市白峰地域（手取川流域）

活動内容

大学生による水源地域振興

みんなに来てもらいたいイベント

- ・雪だるま 2025（雪だるままつり）
- ・白峰地域で行われる祭りの1つ。各家が住民の数だけ雪だるまを作るなど、雪深い白山周辺地域だからこそ開催できるユニークな祭りである。しらみね大学村も祭りの開催にあたって屋台を出展するなど、地域をより盛り上げられるよう協力していく所存である。

よいとこ探しキーワード メモ！





しらみね大学村の白山手取川ジオパークでの活動報告 ～大学生による水源地域振興の試み～

工藤 栄 (しらみね大学村 代表: 金沢大学 融合学域 観光デザイン学類)

白峰について

石川県の最南端、白山の登山口として知られる地域。国指定天然記念物の桑島化石壁や、美人を生む絹肌の湯である白峰温泉を有する。人口は約630人。例年、身長を超す雪が積もる。



しらみね大学村について

大学生が年間を通じて白峰に滞在し、「大学生の村」をつくることを理念に掲げて活動。大学生を中心とした「関係人口コミュニティ」づくりや、学生の存在によって白峰や白山麓地域がいざわい、活気づくことを目指している。

全国から集う学生たち

メンバーの所属機関所在地に着色



石川県に限らず、全国各地から学生が集結している。2025年9月末時点での参画学生数は226名、全国22都道府県から白峰に集まっている。

関係機関との連携



白山市、国交省、環境省、林野庁などの行政機関、各団体や企業等、関係機関と連携。

▲白山手取川ジオパークの推進に関する連携協定をジオパーク推進協議会と締結

住民を助ける「クエスト」



住民の皆さんの困りごとを大学生がお手伝い。交流や各種体験の機会として定着。

▲白峰にある飲食店を手伝う学生の様子
美味しいまかないがお手伝いの報酬

水源地域振興の試み

白山手取川ジオパークは「山・川・海そして雪 いのちを育む水の旅」をテーマとして掲げている。しらみね大学村は、「水の旅」のスタート地点となる水源地域をさらに盛り上げ、ジオパークに関わるあらゆる活動に弾みをつけたいと考えている。

水辺で乾杯



「川の日」である7月7日の7時7分に水辺に集まって盃を交わす催しを開催。青いものを着用した住民・学生が集った。

▲飲み物を提供している大学生の様子
加賀で生産される日本酒は菊酒と名高い

リバーチャレンジスクール



地域の子どもたちと手取川について学ぶイベントを開催。手取川について五感を使って体系的に学んだ。

▲大学生と子どもたちが手取川で遊ぶ様子
流れられる人を助ける体験にもチャレンジ

水源地域を健全に維持していくには、集落が元気である必要があります。水源地域の集落が縮小していくなかで、大学生の関係人口がどのように貢献していくのか今後の展開が楽しみです。



坂本 貴啓 先生
しらみね大学村 顧問
(金沢大学 人間社会研究域)
地域創造学系 講師

総人夫(そうにんふ)



集落全域を清掃・点検する行事に参加。人員が不足している班へ学生が出向き、草刈りや泥上げ等をお手伝いした。

▲土手の草を刈っている学生の様子
集落機能の維持の大変さ・大切さを痛感

報恩講(ほうおんこう)



浄土真宗の開祖・親鸞聖人をしのぶ法要(報恩講)を大学村が主催。法要や料理などの伝統を守っていく。

▲地域住民に料理をふるまう学生の様子
溢れるほどに盛り付ける習わしがある

買い物支援(ジゲソー)



白峰では買い求めることが難しい品々の販売をお手伝い。頼まれた必要数を街へ買いに行き、住民に配達した。

▲地域住民が学生とともに生活雑貨を吟味している様子 並ぶ品々は100品以上

今後の展開

設立から3年が経過し、さまざまな活動を展開することができました。高齢化・過疎化が進行していく農山村地域において、大学生がどのように関係人口として活躍できるのか、「しらみね大学村」はこれからも果敢に挑戦していきます。

2月6日(金)午後 "雪だるま2026" 開催予定!

@白峰温泉総湯周辺 ※駐車協力金として普通車1台につき500円が必要です。

住民や観光客が1人1つ雪だるまを作るユニークなお祭り。雪だるまに灯りが灯されると、まち全体が幻想的な雰囲気に。大学村も出店を予定しています。

C-3 淡海を守る釣り人の会

活動のキーワード

- ① 清掃活動 ② 水辺の小さな自然再生 ③ 安全啓発(ライフジャケット着用啓発)

発表内容

平成 28 年度に初めて本フォーラムに参加し、「マザーレイクフォーラム賞」を頂戴したことから「淡海を守る釣り人の会」という団体名が生まれ、今年度で9年目です。

「釣り人による清掃活動」は本年 12 月に第 35 回を迎える、令和元年度に締結した県・守山市・セブン-イレブン記念財団との連携協定に基づく「滋賀セブンの森」の取組は、本年 10 月に第 13 回を迎えました。また、活動エリアは宇治川、淀川と下流域にも広がり、清掃活動以外にも、水辺の小さな自然再生、ライフジャケットの着用啓発、環境学習、釣り体験教室など、取組にも幅が出てまいりました。

本フォーラムへ参加を機に生まれた当会の“今の取組”をご紹介します。

活動中の川や水辺の名称

琵琶湖、瀬田川、宇治川、淀川

活動内容

湖岸や河川敷の清掃活動、水辺の小さな自然再生、ライフジャケット着用啓発、釣り教室など

みんなに来てもらいたいイベント

- ・6月中旬、10月下旬
- ・琵琶湖の保全再生や地域振興を目的に、県・守山市・セブン-イレブン記念財団・当会の四者で連携協定を締結しており、年2回、「滋賀セブンの森」と題して清掃活動や水辺の小さな自然再生に取り組んでいます。

よいとこ探しキーワード メモ！



湖岸のごみ拾いから新たなステージへ

淡海を守る釣り人の会



私達が目指すもの

私達は、「魚釣り」を通して琵琶湖と向き合い、そこに暮らす生き物や人々の文化を知り、かけがえのない"琵琶湖の価値"を学んできました。

今を生き、今を楽しむ者の責任として、
子どもたちのために、
琵琶湖の魅力をつなぎたい。

この想いで日々取り組んでいます。



主な活動

R6参加者
700名超！

これまでの活動が実を結び、R6～R7は2件の表彰を賜り、大阪・関西万博に出展の機会を頂戴しました。ごみを拾い、生き物を増やすための取組に挑戦し、水辺で安全に楽しむための教室を開く。釣り人にできること、釣り人だからできることはまだまだあります。大好きな琵琶湖のため、これからも皆様と一緒に頑張らせてください！



釣り人による清掃活動



釣り教室、ライフ
ジャケット着用啓発



小さな自然再生

問合せ

ホームページや各SNSにて日々活動を発信中！
ぜひフォローいただき、お気軽にご連絡ください！



C-4 小さな自然再生ネットワーク

活動のキーワード

- ① ホタルの生息域の拡大 ② 出来ることからコツコツと
- ③ わからないことは専門家に頼る！

発表内容

1.カワニナの生息条件をもとめて

カワニナは何を食べているの？専門家への問合せ結果

カワニナが住み着く？バープの試作と観察結果

2.1回/月の川あるきでわかったこと

魚が増えた！

3.川の生き物調査でわかったこと

野洲川からブラックバス、アユが流れ着く？

環境DNAの調査結果

活動中の川や水辺の名称

中の井川 JR 京都線～大宝小学校～南橋公園まで

活動内容

1回/月の川あるく。2回/年の川の生き物調査

みんなに来てもらいたいイベント

・毎月第3土曜日か第3日曜日。6月上旬&11月上旬

・1.川あるく

川の魚や水生生物の観察。ホタルの生息域を拡大するための条件整備。

川のゴミの回収

2.川の生き物調査

魚や水生生物の調査。

ホタルの生息域を拡大するための条件整備

よいとこ探しキーワード メモ！



ホタルの生息域拡大を目指して取り組んでいること

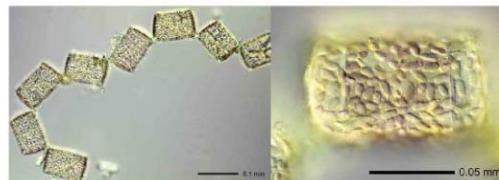
- カワニナを生息させるために、カワニナが生息している環境に近づけるために試したこと
1. カワニナが生息するためには流速が必要？⇒バーブを作り流速に変化を付ける。
 2. カワニナは何を食べているの？⇒(1) ホタルの森資料館の方が教えてくれた。
 3. カワニナの葉やキャベツの葉を食べることのとこと
(2) カワニナが自生している箇所の藻を調査
琵琶湖博物館 大塚さんに藻の解析を依頼
 3. 今の生息条件の確認で、カワニナの移動→天敵に食べられたのか、殻が欠けた死骸のカワニナ
を見発見するのみ。
(協力してくれたカワニナの供養をしないと...)

4. 不足していた生息条件⇒カワニナが吸着する小石や壁面が必要では？

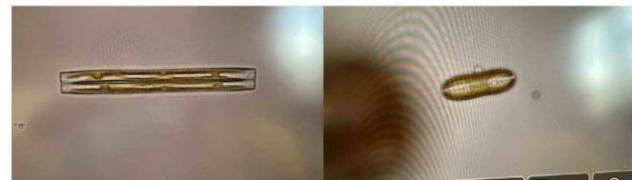
バーブの後方に小石を移動させる実験を開始、観察結果は今後



バーブで流速の変化を付けてみる。後は小石を敷き詰める



滋賀県立琵琶湖博物館 大塚さん 撮影



カワニナが珪藻を食べる？

川ぞこを柔らかくする川あるきで気づいたこと

川の生き物調査をしていたときに、ブラックバスを捕獲した。川あるきでもブラックバスを見かけた。気になり、環境DNA調査を実施してみると、ブラックバスやブルーギルの存在が明らかになった。

今取り組んでいる川は野洲川の石部に取水口があり、野洲川から魚が流れている。

外来生物が琵琶湖以外にも幅広く生息していることが判明した。



アユとブラックバス



オイカワの婚姻色



ヒスを着て
川の生き物調査



助けて欲しいこと

1. 活動資金の捻出

税理士より収入の無い事業の経費は認められないと指摘を受けました。
応援カードに投票してくれる方にお願いです。

活動を継続するための可能なら寄付をお願いします。

2. 川辺の悪いの場作り

川の天道を悪いの場として有効活用したい。

南部土木事務所との協議が可能か？



(↑) 環境DNA調査結果

(←) 環境DNA調査キット
株式会社フィッシュバスさんに依頼



小さな自然再生ネットワーク

C-5 北川を遊べる川にする有志の会

活動のキーワード

- ① 越境 ② 魚道設置に向けて ③ いつかイクラ丼

発表内容

滋賀県を源流に福井県小浜市に流れる北川。行政区をまたいでいることで、以前は、アマゴの放流など川の生き物を無視した施策がされていたこともあった。県境を越えて地域の人がつながって、再びサクラマスが遡上する川になるように、そしていつかイクラ丼が食べられることを夢見て楽しく活動しています。

活動中の川や水辺の名称

北川水系 熊川・天増川・椋川

活動内容

専門職の助言を得ながらバーブ工や魚道設置に向けた準備、河川環境の改善

よいとこ探しキーワード メモ！



北川サクラマス・越境プロジェクト



＜滋賀県にサクラマス？？＞

高島市の北西部に位置する椋川地区は、滋賀県内でありながら琵琶湖水系ではありません。福井県小浜市を河口にする北川の源流部に位置します。

＜50年前までは＞

地元の釣り好きのおじいさんが「昔はマスがのぼってきて、淵にようけおって捕まえた」
今津の人でも「自転車で椋川まで行って捕まえた。ヤマメの主みたいなのがおった」

＜でも今は＞

いつしか、サクラマスは遡上しなった。
今の川は・・・「川の水が減った」「雨が降るとすぐに濁る（増水する）」
山が変わってしまったから？何が変わったの？？

＜サクラマスのプロジェクトを通じて＞

山や川・里を昔のような状態に戻したい
川で遊ぶ子を増やしたい
川に関心を持ってもらいたい
イクラ丼も食べたい❤

＜北川を遊べる川にする有志の会＞

北川に親しみながら、遊べるようにしたいと願い活動する北川流域に暮らす人たちの有志の会で、福井・滋賀の県境を越えて、川と人がつながる活動をしています。

